



2013年9月1日～6日参加

福岡大学3年 純香さん



私は以前CMCでインターンシップをさせていただいて、カンボジアについていろいろ知り、ぜひ1度カンボジアに行ってみたいと思うようになり、今回のスタディツアーに参加しました。カンボジアに行ってみて1番驚いたことは都会と田舎

の格差です。最初、シェムリアップに着いたときは、高級そうなホテルや建物がたくさんあり、思っていたより都会だなと思ったのですが、隣の州に行くと建物が全然なく、地平線と広大な土地が広がっており、こんなに違うのだと驚きました。

このツアーの中で1番楽しかったのは、中学校を訪問して中学生たちと一緒に遊んだことです。行く前は言葉も通じないのにどうやって交流するのだろうととても不安に思っていました。まずコートライ夢中学校に行ったのですが、そこではあまりうまくコミュニケーションをとることができず、やっぱり難しいなと思いました。でも次に行ったトゥーンポンローみおつくし中学校では子供たちの近くに行ってみると、子供たちの方から寄ってきてくれて一緒に楽しく遊ぶことができました。積極的な子供が多く、そこに助けられた部分は大きかったのですが、言葉が通じなくても交流でき

るのだと学びました。また子供たちのきらきらした笑顔を見ることができて、とても幸せでした。

ツアーでは地雷博物館に行ったり、義足リハビリセンターに行って実際に地雷の被害で足をなくした方のお話を聞いたり、地雷についても学びました。その中で1番印象に残ったのは戦争の被害で目が見えなくなってしまった方へインタビューしたとき、



被害にあったときの気持ちを聞くと、「被害にあったのは前世の行いのせいだから仕方がない。不安は特になかった。」とおっしゃったことです。カンボジアは仏教が信仰されており、輪廻転生の考えの下、そう考える人が多いとのことでした。日本でもそれを聞いたことはありましたが、実際に被害にあわれた方の口からそういう言葉を聞くと現実味があり、衝撃的でした。それが差別の原因にもなっていることを思うと、悲しい気持ちになりました。こういう方たちを少しでも支援したいと思いました。

この6日間本当に充実した日々を送ることができました。カンボジアに行ったのは初めてで、全てが新鮮でした。アンコールワットやタブロームなどの遺跡も生で見えて、感動しました。食べ物もおいしかったし、アプサラダンスなどの伝統舞踊も見ることができ、多くのカンボジアの文化に触れられて楽しかったです。またカンボジア人は親切な人が多く、親日的だということも知り、嬉しかったです。日本は戦後カンボジアに支援してもらっていたということをこのツアーの中で初めて知りました。その恩返しという意味も込めて今日本は積極的にカンボジアを支援しているということも知りました。このことから私も何か支援に貢献したいとさらに思いました。このツアーでカンボジアが大好きになりました。参加できて本当に良かったです。ぜひまたカンボジアに行きたいと思います。6日間本当にありがとうございました。